

【DX戦略書】 株式会社阿部工業

2025年9月2日

代表取締役社長 阿部 貴之

私たち阿部工業は、「金属加工技術の研鑽に努め、社会に貢献する」というビジョンのもと、お客様の信頼に応えるべくものづくりに真摯に向き合ってきました。

今、デジタル技術の進化は、ものづくりの在り方を大きく変えようとしています。私たちはこの変化を絶好の機会と捉え、「豊かな想像力と熱意ある行動力」という経営理念のもと、DX（デジタルトランスフォーメーション）を強力的に推進してまいります。

私たちのDXは、これまで培ってきた匠の技と最先端のデジタル技術を融合させ、生産性の飛躍的な向上や、データ活用による徹底した品質管理を実現するものです。これにより、お客様一人ひとりのニーズに、より迅速かつ的確にお応えできる体制を構築します。

阿部工業は、DXを通じて挑戦を止めません。社員一人ひとりが成長を実感できる企業文化を育み、無限の未来を切り拓くことで、お客様、そして社会から「必要とされる阿部工業」であり続けることをお約束いたします。



代表取締役社長 阿部 貴之
2025年9月2日

1 | DX推進の背景

2 | 経営理念、経営ビジョン、
DXビジョン、事業部ミッション

3 | ビジネスモデルの方向性
について

4 | DX戦略の概要について

5 | DX推進のための体制について

6 | DX推進に必要な人材の育成・確保について

7 | IT環境の整備について

金属加工業界におけるデジタル技術の進化がもたらす影響を踏まえ、DXの推進を重要な経営課題と位置づけている。デジタル技術の活用により、生産性の向上や新たな市場機会の創出が可能となる一方で、技術変化への適応やセキュリティ対策が求められる。当社は、これらの変化を適切に捉え、積極的なデジタル活用による成長を目指している。

機会

生産性向上：IoTやAIを活用した生産管理システムにより、製造プロセスの可視化と最適化が可能となる。

品質向上：データ分析を活用し、不良品の発生要因を特定・削減することで、製品品質の向上を図る。

市場拡大：デジタルマーケティングの活用により、国内外の新規顧客へのアプローチが可能となる。

新規事業の創出：デジタル技術を活用した新たな製品開発やカスタマイズ製造の強化により、新たな市場機会を獲得できる。

リスク

技術革新への対応遅れ：デジタル化の進展に適応できなければ、競争力の低下や市場シェアの喪失につながる。

人材不足：デジタル技術を活用できる人材の確保・育成が求められる。

サイバーセキュリティの脅威：デジタル化の進展に伴い、情報漏洩やサイバー攻撃による生産停止のリスクが増加する。

初期投資の負担：デジタル技術導入にはコストがかかり、ROI（投資対効果）を慎重に見極める必要がある。

経営理念

私たちは豊かな想像力と熱意ある行動力で無限の未来へ挑戦し続けます。私たちは絶えず自己と技術の研鑽に努め社会に必要とされるより良い製品提供に全力を尽くします。私たちは仕事を通じて一人ひとりが成長し人生の成功へと邁進します

経営ビジョン

必要とされる阿部工業であり続けるために、金属加工技術を磨き続け、社会に貢献する。

DXビジョン

経営ビジョンの実現のために、デジタル技術を活用し、業務の効率化や市場拡大を推進するビジネスモデルを構築する。これにより、事業の持続的成長と社会貢献を実現することを目指している。

SBT認定

中小企業向けの最新式の目標検証方法によって承認済みである。株式会社阿部工業は、2022年を基準年として、2030年までにスコープ1とスコープ2の温室効果ガス排出量を42%削減し、スコープ3の排出量を測定・削減することを約束します。

事業部ミッション

Mission 1

私達は、豊かな想像力と熱意ある行動力で無限の未来へ挑戦し続けます。

Mission 2

私達は、絶えず自己の技術の研鑽に努め、社会に必要とされるより良い製品提供に全力を尽くします。

Mission 3

私達は、仕事を通じて一人ひとりが成長する「人生の成功」へと邁進します。

デジタル技術を活用し、業務の効率化や市場拡大を推進するビジネスモデルにより、事業の持続的成長と社会貢献を実現することを目指している。

1.技術革新の推進

- 新素材や新技術の開発に取り組み、競争優位性を確立する。
- デジタル技術を活用し、製造プロセスの自動化・最適化を推進する。

2.生産管理の高度化

- IoTを活用した生産管理システムを導入し、リアルタイムでの生産状況の可視化を実現する。
- AIを活用した品質管理システムを構築し、不良品の削減と生産効率の向上を図る。

3.人材育成と働き方改革

- 社員一人ひとりがデジタル技術を活用できるよう、研修プログラムを強化する。
- 労働環境の改善に向けたデジタルツールの活用を推進し、生産性の向上とワークライフバランスの充実を図る。

4.市場拡大と顧客価値向上

- デジタルマーケティングを活用し、新規顧客の獲得を促進する。
- 顧客データを活用し、個別ニーズに対応した製品・サービスを提供する。

生産効率向上と品質向上に向けて以下戦略を実施します

1.生産管理システムの高度活用と連携強化

- 生産管理システムのデータをリアルタイムで分析し、作業進捗や生産状況の可視化を実現。
- 生産計画と実績データを照合し、納期遵守率の向上とリードタイム短縮を推進。
- 工程ごとの生産データを蓄積し、最適な作業スケジュールを算出する仕組みを構築。

2.品質管理のさらなる向上

- 不良品発生率のデータを分析し、品質トラブルの根本原因を特定・改善。
- 検査結果のデジタル管理を導入し、品質保証プロセスのトレーサビリティを向上。過去の品質データを活用し、不良傾向を予測することで、予防的な品質管理を実施。

3.業務のペーパーレス化と情報共有の効率化

- クラウド型のデータ共有システムを導入し、受発注情報や生産指示の即時共有を実現。
- 納品管理データをデジタル化し、取引先との連携を強化。
- 業務履歴データを蓄積・分析し、作業の無駄を削減する業務改善策を立案。

4.データ活用による経営の最適化

- 生産・売上・在庫データを可視化し、経営判断の迅速化を図る。
- 設備の稼働率データを分析し、予防保全計画を最適化し、ダウンタイムを削減。
- 経営KPIを設定し、データを基にPDCAサイクルを確立。

5.DX推進のための人材育成とスキル向上

- 各部門がデータ活用スキルを向上させるため、社内研修や勉強会を実施。
- データ分析ツールの活用方法を学ぶ研修を定期開催し、現場主導の改善活動を支援。
- 外部セミナーや専門家のアドバイスを受けながら、データ活用の高度化を推進。

DX戦略を着実に推進し、継続的な改善を行うため、経営層を中心としたDX推進体制を構築。
月1回のDXミーティングを実施し、進捗や課題を確認し必要な改善策を講じる。

1.DX推進責任者 (代表取締役社長)

- ☑ 会社全体のDX推進を統括し、最終意思決定を行う。
- ☑ DX推進の進捗を定期的に確認し、必要に応じて軌道修正を指示。
- ☑ 経営戦略とDX戦略を連携させ、投資判断やリソース配分を行う。

2.DX推進担当者

- ☑ 現場の意見を取りまとめ、DX推進の具体策を企画・実行。
- ☑ 生産管理システムや業務デジタル化の活用状況をチェックし、改善点を洗い出す。
- ☑ 各部門の業務プロセスを分析し、デジタル化による効率向上策を立案。

3.現場リーダー

- ☑ 現場でのDX施策の実施状況を確認し、実務レベルでの課題を吸い上げる。
- ☑ 必要なデジタルツールの活用方法を現場メンバーに指導。
- ☑ 経営層・DX推進担当者と連携し、現場のDX推進を支援。

DX推進に必要な人材育成・確保について

社員のデジタルスキル向上とDX推進に必要な人材の確保に向けて以下取組を実施する。

社内研修やOJTを通じて、業務に直結するデジタル技術の習得を支援するとともに、必要に応じて外部研修の活用や専門人材の確保を進め、DX推進の基盤を強化を目指す。

**1.社内研修・OJTの
実施**

- 生産管理システムやデータ活用の基礎教育を定期的を実施し、社員のデジタルリテラシーを向上。
- 現場でのOJTを通じて、システムの活用方法やデータ分析のスキルを実践的に習得。
- DX推進担当者が、社員のスキル向上をサポートし、業務改善に直結する学びを促進。

**2.外部研修・専門機
関との連携**

- デジタル技術や業務改善に関する外部セミナーやオンライン講座を活用し、最新技術を習得。
- 必要に応じて、外部の専門家を招いたワークショップを開催し、実践的なDX推進スキルを習得。
- 他社との情報交換を通じて、業界のDX推進事例を学び、自社への応用を検討。

**3.DX推進リーダーの
配置と育成**

- 各部門にDX推進リーダーを配置し、現場でのデジタル活用を促進。
- DXリーダーが現場の意見をまとめ、DX推進担当者と連携して業務改善を推進。
- 育成プログラムを通じて、DX推進を担う人材を計画的に確保。

**4.人材確保のための
採用戦略**

- 社内のDX推進力を強化するため、デジタル技術に関する知識を持つ人材の確保を推進。
- インターンシップや社外ネットワークを活用し、将来のDX推進人材の育成・確保を図る。

**5.人材育成・確保の
評価とフィードバック**

- 研修受講率やスキル向上の進捗をモニタリングし、育成計画を調整。
- DX推進リーダーを中心に、社員からの意見を収集し、育成プログラムの改善を実施。
- DX戦略の進捗と連携し、人材育成・確保の施策を継続的に見直し。

既存のITシステムを最大限活用しつつ、さらなる業務効率化とデータ活用を促進する環境を整備を実施。
生産管理システムやデジタルツールの活用により、業務の見える化・最適化・省力化を推進し、競争力の強化を図る。

1.生産管理システムの高度活用

導入済みの生産管理システムを活用し、作業のリアルタイム進捗管理を強化。

生産計画と実績データを照合し、納期遵守率の向上とリードタイム短縮を推進。

工程ごとの生産データを蓄積し、最適な作業スケジュールを算出する仕組みを構築。

2.品質管理のデジタル化

品質管理システムを活用し、不良品発生率のデータ分析を実施。

検査結果のデジタル管理を進め、品質保証プロセスのトレーサビリティを向上。

過去の品質データを活用し、不良傾向を予測することで、予防的な品質管理を実施。

3.業務のペーパーレス化と情報共有の効率化

クラウド型のデータ共有システムを導入し、受発注情報や生産指示の即時共有を実現。

納品管理データをデジタル化し、取引先との連携を強化。

業務履歴データを蓄積・分析し、作業の無駄を削減する業務改善策を立案。

4.ITインフラの最適化とセキュリティ対策

社内ネットワーク環境を強化し、データの円滑な連携と安全な運用を確保。

クラウドサービスの活用を拡大し、データのバックアップ体制を強化。

セキュリティ対策を強化し、不正アクセスや情報漏洩のリスクを低減。

DX戦略の推進状況を定期的に評価し、DX施策の進捗を可視化しながら、改善と最適化を目指す。生産管理・品質管理・業務効率化・データ活用の観点から具体的な指標を設定し、DX戦略の効果を測定、改善をを取組む

1.生産管理システムの高度活用と連携強化

- 一人当たりの労働生産性：年1%以上を目指す。
- 一人当たり残業の削減
- 働き方の見直し
- 納期の遵守率が上がる

2.エネルギー起点のDX

- 再生可能エネルギーの利活用における、電気使用量の可視化の実行により温室効果ガスの削減を狙う。

3.品質管理のさらなる向上

- 不良品発生率：1%以下を継続する
- クレーム件数：顧客満足度の向上を目的に、品質問題の減少を評価。
- 検査データデジタル化率(目標：100%デジタル管理を維持)：品質管理の効率化とデータ活用の推進度を測定。

4.業務のペーパーレス化と情報共有の効率化

- デジタル化された業務プロセスの割合(目標：80%以上)：紙ベースの業務削減率を測定し、DXの進捗を可視化。
- 社内情報共有ツールの活用率(目標：100%)：クラウド型情報共有システムの利用状況を測定し、業務効率化を促進。

5.データ活用による経営の最適化

- 経営KPI可視化率(目標：100%データ分析ツールで管理維持)：売上・コスト・在庫データのデジタル化と可視化を測定。
- 予防保全実施率(目標：3年以内に80%)：設備データを活用し、計画的なメンテナンスの実施状況を評価。